

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト 目標の達成度 (今期事業達 成目標)</p>	<p>プロジェクト目標は「4館の図書館・学習センター利用者の生活の質が改善し、53校の公立学校において教育の質が改善している」である。図書館の利用者の生活の質の改善については、施設建設および図書館運営委員会の能力強化の完了した1館において、ネパール語を問題なく読める住民割合が事業前の60%から事業後には74%に、コンピューターを使える住民の割合は30%から80%に、読書習慣を持つ住民の割合は43%から55%にそれぞれ改善した。公立学校の質の改善については、88%の学校で児童中心の教授法が採用されている。上位目標の「対象地域の住民の生活の質が改善し、児童・生徒の学習達成度が改善している」の発現を判断するには時期尚早である。</p> <p>2年次の目標は「1館の図書館・学習センターが竣工・開館し、3館の図書館・学習センターの施設が竣工する。1年生から8年生までの教員用手引き、児童用教材が開発され53校の校長と教員が児童中心の教授法についての研修を受けている」である。【図書館改善】については1館の図書館・学習センターが竣工・開館した。竣工式は2021年12月に開かれ、外務大臣を主賓に迎え、自治体首長や住民960人が参加した。月あたりの利用登録者数は借家での旧図書館時の約100人から6倍の約600人に、年間利用者数は4,752人から11,142人に増加した。【教授法改善】については、計画通り、6-8年生を指導するための教員の手引き、6-8年生用の教科書計1,950冊が印刷された。現在6-8年生クラスのある14校への配布を進めている。1-5年生向け教科書は既に52校に配布されている。なお1校が統廃合され対象校は52校に減少した。また6-8年生クラスがある14校の校長14人および教員26人が研修を受けた。</p>
<p>(2) 事業内 容</p>	<p><b>【成果/活動1~3: 図書館・学習センター改善活動】</b></p> <p><b>1. 耐震構造の図書館・学習センター施設の建設</b></p> <p>●対象地域：ラリトプール郡図書館・学習センター1館</p> <p>1-2. 図書館・学習センターの建設を完了した</p> <p>1-3. 施設内の各セクションの資機材を供与し、内装を整備した</p> <p>図書室、児童室、若者セクション、女性セクション、コンピューター室、研修ホールを含む各セクションに対して、図書や資機材を供与して内装を6月に整備した。コロナ禍による行動規制が8月まで続いたため、10月に全面開館した。学習センターとしての機能も備えるために、日本の児童館、青年センターと同様に、若者および児童用の部屋には、図書に加えてスポーツ用品、楽器、玩具・ゲーム等も備えて、若者、児童に対する学校外教育機会を提供し、心身両面での健全育成を行った。</p> <p>1-4. 竣工式を開催した</p> <p>2021年12月に外務大臣を主賓として、自治体長および住民960人が参加し、竣工式を実施した。</p> <p>●対象地域：シャンジャ郡、ソルクンブ郡、マホタリ郡の図書館・学習センター3館</p> <p>1-2. 図書館・学習センターを建設した</p> <p>3館の建設工事を2021年4月に開始し、2022年2月末までにN連支援による工事が完了した。一部未了の工程については、自己資金（図書館運営委員会が負担）で行い、5月末までに完成する予定。</p> <p><b>2. 図書館・学習センターの運営能力強化と利用者の能力向上</b></p> <p>●対象地域：ラリトプール郡図書館・学習センター1館</p> <p>2-3. 自立運営のための収益事業立上げ支援を行った。図書館施設の一部を店舗施設として整備し、賃貸収入を月に14,000ルピー得ている。</p>

#### 2-4. 図書館員研修

図書館員と図書館のユースボランティアを対象に、図書の登録、配架、貸出、照会や、絵本や紙芝居の読み聞かせなどを行う上で必要な知識と技能を習得するための研修を行った。開催回数1回、開催日数19日、参加者数25人であった。図書館・学習センター開館後にフォローアップ研修を実施した。

#### 2-5. 図書館・学習センターにて地域住民・子ども向け各種学習活動を実施した

図書館・学習センター内での日々の図書館・学習センター活動に加え、地域住民への読書推進、学習プログラムとして下記の活動をした。

##### ① 読書習慣推進活動

児童を対象に読書感想文コンテストなどの読書習慣活動を5回実施、128人が参加した。

##### ② 女性・若者のエンパワメント研修

女性のエンパワメントを目的に、パブリックスピーキングについての研修を3日間、報告書作成方法についての研修を2日間行い、計59人が参加した。若者のエンパワメントを目的に、生活技能についての研修を3日間、イベントの運営方法の研修を3日間行い、計57人が参加した。

##### ③ 生活改善問答集の作成

12の生活改善グループが組織され、339人(男:19, 女:320)が参加した。保健、衛生、環境、農業など地域での生活に関する課題を住民に聞き、その回答・解決策を示した教材(シート)を8種類開発し、図書館・学習センターに展示するとともに各課題についての学習活動で活用した。各グループは3回、生活課題について専門家と話し合う会合を開いた。土壌テスト、土壌改善、トマト栽培についての研修を合同で計3回開いた。また図書館を会場にアニマルキャンプが開かれた。住民は計84頭の家畜を図書館に連れてきて、獣医師による家畜の健康診断、ワクチン接種、薬の投与が行われた。

##### ④ 地域の昔話を基に絵本を作る活動

子どもが祖父母から地域の昔話を聞くワークショップと作家、イラストレーターの指導の基に文と絵を描くワークショップを開いた。児童や高齢者ら計89人が参加した。その後、作家、デザイナーによる編集、レイアウトを経て、地元の昔話絵本を1,000部発行し、学校、他の図書館・学習センターに配布した。本活動は自己資金にて実施した。

##### ⑤ コミュニティでのおはなし会セッション

絵本の読み聞かせや紙芝居の演じ方についての2日間の研修を22人のユースボランティアを対象に実施した。その後、ボランティアが図書館・学習センターおよび近隣の学校と地域で、紙芝居の実演、絵本の読み聞かせ、ブックトークをおこない、児童の図書館・学習センターへの来館および読書への動機づけをはかった。計8回実施し、256人の児童が参加した。

##### ⑥ コンピューター室での講座、利用者の支援

ICT担当がコンピューターソフト(ワード、エクセル、パワーポイント、メール、インターネット)の講座を年間40回実施した。10月の全面開館後、月当たり平均174人がコンピューターを利用した。

##### ⑦ 起業スキル研修

住民が個人事業主として起業するための知識とスキルを開発および強化するための研修を2回行った。1回目はおもちゃ・ぬいぐるみ製作について、8日間行った。2回目は店舗運営について、2日間行った。計51人が参

加した。この活動は自己資金で実施した。

⑧ 住民組織・行政との協議

上述した住民組織である図書館運営委員会および地区行政機関（Ward office）と図書館活動および能力強化活動の進捗を共有し、課題を明確にし、解決策を協議するための会合を開催した。計画では4回開催する予定であったが、コロナ禍による4月から8月まで課された行動規制のために2回のみ開催し、計68人が参加した。

2-6. エンドライン調査を行った

コミュニティの若者を対象にエンドライン調査方法およびデータ入力方法についての研修を行い、図書館・学習センターの利用者335人を対象にエンドライン調査を行った。識字能力や読書習慣、コンピューター利用状況等をインタビュー調査によって測定した。

2-7 社会監査を実施した

ネパールの法令に基づき、建設工事の透明性と説明責任を地域住民に保障するために、図書館運営委員会が社会監査を開き、建設工事の会計報告、事業内容が発表され、意見交換が行われた。45人が参加した。

●対象地域：シャンジャ郡、ソルクンブ郡、スンサリ郡の図書館・学習センター3館

2-1. 図書館・学習センター建設の準備を行う

3館の図書館運営委員会と耐震構造施設の建設および支援に関する覚書を2021年3月に交わした。図書館・学習センター建設準備として、建設用地の土壌テスト、サイトプランを含む、初期調査を実施した。地域住民により、図書館建設副委員会、モニタリング・評価副委員会、資金調達副委員会、広報副委員会を編成した。その上で、地域住民や関係者からのフィードバックを受けながら、図書館設計図を作成し、設計図の政府承認を受けた。入札、建設業者の選定を行い、図書館建設と運営について、地域住民や関係者にオリエンテーションを実施した。

2-2. ベースライン調査を行った

3館のコミュニティの若者を対象にベースライン調査方法およびデータ入力方法についての研修を行った。その後、事業開始前の図書館・学習センター利用者のインタビュー調査を行った。

2-3. 図書館運営委員会のマネジメント研修を実施した

図書館運営委員会メンバーを対象に、図書館・学習センター運営に必要な計画立案、会計、人事管理についての能力を強化するために以下の4種の研修を行った。

- ① 組織強化・グッドガバナンス・政策立案研修:3館で各2日間実施し、計69人が参加した。
- ② 財務管理・会計管理研修：マトリブミ図書館で実施し20人が参加した。コロナ禍による行動規制のため他の2館での実施は3年次にシフトした。
- ③ 優良コミュニティ図書館・学習センターへの訪問学習：2図書館を対象に実施し、計44人が参加した。コロナ禍による行動規制のためジュンベシ図書館の実施は3年次にシフトした。

なお、計画していた住民組織化研修（各館1回、3日、参加者数25人）はコロナ禍による行動規制のため3年次にシフトした。

## 2-4. 自立運営のための収益事業立上げ支援を行う

図書館委員会の下に設置される自立運営事業小委員会を組織し、同小委員会を対象に、図書館・学習センターの財政面の自立を保障するための収益事業の計画立案、研修を3館で2日間ずつ行い、計7人が参加した。マトリブミ図書館は施設の店舗賃貸と女性の共同組合設立、スナウロ図書館は施設の店舗賃貸、ジュンベシ図書館は生活必需品の店舗運営を計画している。3年次終了時まで各館での収益事業を軌道に乗せる予定。

## 3. コミュニティ図書館に関する政策提言活動

### 3-1. コミュニティ図書館全国調査を実施した

全国のコミュニティ図書館の調査を教育省と実施した。確認されている928の図書館のうち227館について調査を行うことができ、うち機能しているのは223館であることが明らかになった。またこれらの図書館の図書館員、蔵書数、サービス、施設の状況、財務状況について調査分析し、報告書にとりまとめ発行した。

なお、計画していた3-2. 全国調査結果を発表するための会合、3-3. 政策提言戦略計画を策定、3-4. 政府への働きかけは、コロナ禍のため上記調査の実施が遅れたため、3年次に延期した。

### 3-5. 各図書館・学習センターでの支援終了時会合を実施した

ラリトプール郡ゴダワリ図書館・学習センターの支援終了にあたり、2年間の支援の評価を行い、今後図書館運営委員会が自立運営していくための将来計画、戦略を策定するための会合を開いた。図書館運営委員会、住民代表、自治体職員ら27人が参加した。

## 【成果/活動4~7: 教員の教授法改善活動】

### ●対象地域：マクワンプル郡ラクシラン農村自治体

## 4. 教員の能力強化

### 4-1. 校長・教員へ児童中心の教授法研修を実施する

校長・教員研修用に、カリキュラム専門家、ネパール語専門家、レイアウトデザイン専門家が、6-8年生向けの教授法研修ガイドブックの開発を行った。その上で、ローカル・サブジェクトを教材とした児童中心型の教授法についての研修を、6-8年生クラスを有する14校の14人の校長、26人の教員を対象にそれぞれ実施した。

### 4-2. 授業のモニタリング・助言指導を行う

モニタリング専門家が授業モニタリングツールを開発し、ローカル・サブジェクトが実施されている1年生~5年生までの6校の授業のモニタリングと助言指導をカリキュラム専門家と共に行った。

その後、フィールドスタッフが区別に二段階無作為抽出した16校の成果指標のデータを収集した。その結果、学校閉鎖終了後に対象郡では、全部で19コマのローカル・サブジェクトの授業を実践すべきところ、ばらつきはあるものの16校すべての全学年で授業が実践されていた。

一方、児童のローカル・サブジェクトの学習達成度の評価ツール（テスト）を1年生から5年生を対象に開発し、教員にオリエンテーションを行った。テストは学期末である3月下旬に実施された。

## 5. 学習環境の整備

### 5-1. 図書コーナー活用法研修を実施する

幼児クラス教員50人を対象に読み聞かせなど図書コーナーの活用法なら

	<p>びに紙芝居の効果的な演じ方を習得するための研修を実施した。</p> <p>5-2. 図書コーナーを設置する 52校の幼児クラス～5年生クラスの全289教室に図書コーナー（本棚と図書）を設置した。図書数は1教室あたり100冊。</p> <p>5-3. 作家、イラストレーター、編集者を対象にした紙芝居製作研修を実施した 日本からの専門家の派遣がコロナ禍のため不可能になったため、オンラインで実施した。参加者12人は4グループに分かれ、講師の指導のもとに紙芝居を制作、最終日に演じた。また児童図書出版社2社の代表や編集者もオブザーバー参加した。</p> <p>5-4. 紙芝居の制作・配布を行う 栄養や衛生、食生活をテーマに2タイトル、各150部の紙芝居を日本の専門家の助言を受け、内容について教育省の承認を得たうえで、開発、配布した。WFPとの連携事業で、本事業で配布する紙芝居の制作分は自己資金で実施した。</p> <p><b>6. 教員の手引き、児童用教材の開発</b></p> <p>6-1. ローカル・サブジェクト開発委員会の会合を開催した 本事業で開発する教科書の承認、活動の進捗報告、自治体との協力についての協議の場として、ローカル・サブジェクト開発委員会（7人）と自治体教育課職員等の会合の場を持った。</p> <p>6-4. 児童用教材の開発ワークショップを行い、教材を制作する ワークショップを開催し、6年生～8年生向けの教科書の案を開発した。その上で、カリキュラム専門家、ネパール語専門家、レイアウトデザイン専門家が教科書を編集し、印刷した。印刷部数は、計1,950部（6年生用800部、7年生用650部、8年生用500部）。</p> <p><b>7. 教育行政機関の能力強化</b></p> <p>7-1. 自治体教育部トレーナー研修を実施する コロナ禍のため、予定していた自治体教育部に対するトレーナー研修は実施できなかったため、3年次に延期した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p><b>【図書館・学習センター改善活動】</b></p> <p><u>成果1 耐震構造の図書館・学習センターが建設されている</u></p> <p>2年次の指標： ① 4館の図書館・学習センターが竣工している 結果：1館が100%完成し、3館が90%完成した。 ② 1館の図書館・学習センター利用者が6,000人から12,000人に増加する(200%増)。 結果：建設された図書館・学習センターの利用者数：2021年10月に全面開館したゴダワリ図書館については、家屋を借り上げて図書館として利用していた2020年3月から2021年2月の年間利用者数が4,752人であったのに対して、本事業の2年次の2021年3月～2022年2月の年間利用者数は11,142人と234%増加した。</p> <p><u>成果2 図書館・学習センターの運営能力が強化され、利用者(女性、若者を含む)の生活の質の改善に向けた能力が高まる</u></p> <p>2年次の指標</p>

① 4館の図書館運営委員会の図書館・学習センター運営に対する理解度が40%から80%に向上する。

結果：ゴダワリ図書館運営委員会の①財務・会計管理研修、②住民組織化研修、③自立運営事業研修（自己資金で実施）、④組織強化・グッドガバナンス研修の終了時に実施した質問紙調査結果は、下記の通りで、住民組織化研修以外は、目標値を達成している。

	参加者数	理解度
財務・会計管理研修	15	84%
住民組織化研修	31	40%
自立運営事業研修	30	78%
組織強化・グッドガバナンス研修	30	90%

残りの3館は研修が未修了のため、未達成。4館とも郡行政事務所への登録を更新した。

② 4館の図書館・学習センターサービスを適切に実践できている図書館員および図書館ボランティアが4人から88人に増加する。

結果：ゴダワリ図書館の図書館員およびボランティアは25人。残りの3館は未達成。

③ 1館の自立運営事業の収益が図書館・学習センターの経常費用の60%に達している。

結果：ゴダワリ図書館の自立運営事業の収益は14,000ルピー/月であり、経常費用55,000ルピーの20%を調達している。なお同図書館は年に200万ルピーの助成金をゴダワリ自治体から得ている。

④ 1館の学習活動に参加した利用者の数が100%増加する。

結果：ゴダワリ図書館における本事業の2年次の2021年3月～2022年2月の年間利用者数は11,142人と前年度比234%増加した。

⑤ 1館の研修・学習プログラムに参加した女性、若者のうち70%の参加者の各種能力が改善する。

結果：研修終了時における効果測定を実施しなかったため不明。3年次の3館対象のプログラムでは効果測定を実施する。

成果3 コミュニティ図書館に関する政策を改善するための政策提言活動が強化されている

2年次の指標：

① コミュニティ図書館全国調査報告書が完成している

結果：完成した。

② コミュニティ図書館についての政策提言戦略計画書が完成している

結果：調査報告書の発表セミナーが未実施のため未達成。

#### 【教員の教授法改善活動】

成果4：教員が児童中心の授業を実践するための知識と技能を習得している

2年次の指標：

① 1年生から8年生までの研修参加者教員の内、授業実践に必要な知識と技能を習得している教員が0%⇒80%に増加する。

結果：1-5年生までの担当教員については達成済み。6-8年生の教員についてはデータの取得ができなかった。3年次に実施するリフレッシュ研修にてデータを取得する。

② 研修を受けた1年生～5年生の教員の内、児童中心の授業を実践している教員が0%⇒70%に増加する。

	<p>結果：16校のデータによると、88%にあたる14校では一部の教員ではあるが児童中心の授業を実践している。</p> <p><u>成果5：児童中心型の学びを促す環境が整備されている</u> 2年次の指標： ② 図書コーナーを利用している児童の割合が0%⇒50%に増加する。 結果：コロナ禍による閉校のため正確なデータは収集できていないが、7校のモニタリングの結果、80%の児童が定期的に図書コーナーを利用していた。</p> <p>④紙芝居を実践している教員が0%⇒60%に増加する。 結果：コロナ禍による閉校のため正確なデータは収集できていないが、7校のモニタリングの結果、すべての教員が紙芝居を実践していた。</p> <p><u>成果6：児童中心の教授型の教授法を取り入れたローカル・サブジェクトの教材が開発されている</u> 2年次の指標： ① 1～8年生までの児童用教材が開発されている 結果：1～8年生の学年毎の教科書が開発された。 ② 開発された教材を利用する1年生～5年生の児童数の割合が0%⇒100%へ増加する。 結果：7校のモニタリングの結果は1～5年生の100%の児童が教科書を授業で利用していることを示した。</p> <p><u>成果7：教育行政機関が児童中心の教授法を普及するための能力を有している</u> 2年次の指標： (技術的能力) 児童中心教授法の研修講師を務め、授業実践のモニタリングを適切に行うことができる自治体教育関係者が0人から5人に増加する。 結果：トレーナー研修を未実施のため未達成。 (財政的能力) 生徒用教材の印刷費の50%を自治体教育課が負担している。 結果：2022年5月に始まる新学暦において自治体は5年生の教科書印刷費を負担することを確約済。1-5年生の教科書印刷費の20%を負担。</p>
(4) 持続発展性	<p>図書館・学習センター改善活動は、対象4館の図書館運営委員会が図書館・学習センターを自立運営する。財政は、本事業が立ち上げを支援する収益事業による収入、自治体からの補助金によって確保する。図書館運営に必要な知識、技能は、本事業による同委員会および図書館員に対する研修によって習得される。1館においてこれは達成された。図書館・学習センターに関する政策を改善するための政策提言活動は、本活動のパートナー団体であるREAD Nepal およびネパール図書館協会が引き継ぐ。</p> <p>教員の教授法改善活動は、対象地域の地方行政機関であるラクシラン農村自治体が引き継ぐ。1年次に開発した教材を利用した児童を中心とした教授法をすべての学校で実施することを決定する。3年次に翌会計年度の必要な予算を確保するとともに、児童中心の教授法を普及のための人員体制を確保する。また、同課の職員および学校指導主事が教員研修を行う能力を習得する。本事業の実践例は全国会議で共有する。</p>